

## 第1回 東大本番レベル模試 答案採点例

### 第四問 (現代文)

(一)

※全体的によくできていた。

○「功利性原理」によれば、倫理的価値の究極的本質は有用性と全体性にあるが、有用性はあらゆる価値に普遍的な性質であり、全体性こそ倫理的価値の特質であること。(5点)

○倫理性は有用性、全体性から成るが、有用性は価値一般に共通で普遍的な性質であるので、全体性が倫理性の根拠、独自の特徴であるということ。(5点)

(二)

○倫理的たる条件は全体性であり、集団は構成員にとって内部での共通性と外部への断絶から明確かつ強固な全体性を持つものであるといえるから。(5点)

○集団の内と外では質的な断絶があり、集団とは全体性の担い手であるので、集団性そのものが倫理性の根拠である全体性を内在させているから。(5点)

(三)

△集団的行為自体に倫理性が内在することで、倫理的墮落への心理的抵抗力が個人と較べ集団ははるかに弱く、反倫理的行為が使命感や義務感すら伴ってなされること。

△集団的全体性は倫理的欲求を満たしてくれるため、反倫理的行為が倫理的行為となってしまう、価値の追求が同時に価値の毀損になつてしまうこと。

→ 「逆説」「パラドキシカル」といった語を用いたい。(4点)

(四)

△人間社会の倫理的思考を支える社会や国家という全体は、各人が全体を自らと対置されたものとして捉えるため、非人間的全体であり、抽象的観念に過ぎないこと。

→ 波線部に続いて、「自己を排除する」という説明をすると、なぜ「非人間的」になるのかがよりよくわかるようになる。(4点)

△人間の倫理的思考を支えるのは公であるのに、公はその中に人間を含まない、抽象的観念にすぎず、それに依拠する判断と行動派主観的倫理意識や反倫理的傾向を生みがちであること。

→ 傍線部の「トリック」が、段落冒頭の「心理的陥穽」と同じものであることに気づけば、解答の前半の説明をさらに詳しくし、後半の説明は省いてもよいことがわかるだろう。(3点)